

文久四年二月十一日より文久四年二月十一日まで

代官

P8311087right

仙台家来武頭出迎ふ、同領分外迄同家来代官某郡方下役某伊沢郡大庄屋
付添来る会釈、同所に南部美濃守家来老人外に目付役徒目付、医師代官同下役出迎え
引續き火の廻り役某出迎え足軽四人先導す、右鬼柳村小休同所へ領主南部家より使者着
越し領内中は付役徒目付医師、何れも付添小休所等迄へ尋問の筈の処却つて迷惑ありし
に付今夕旅宿へ尋問の旨申敷帰りし趣、同所出立、代官添役、同下役国の通り役人馬差配役等各
所に

出役、町外れ番所有りし麻上下姿の者は□の座其の外は下座会釈、和賀川船渡手前に船手頭出役
会

(黒沢尻休) 釈、船は別に設け無し、黒沢丸午休所へ第十一時過着、同所にて番所代官

同下役火の廻り役

夫々出役、右代官は休所へ尋問に来る、町並盛ならざれども三五家程相応の商家あり、休所抔
美麗

且狭からず、尤監察など同行にては差支うべく覚える、右午休所の膳部の内、香の物は別膳に置
けり其風

P8311087left

異なり怪しむべし、第十二時過ぎ出立、町外れ番所代官来同添役火◎の廻り役等、夫々の出役そ
れより成瀬村小休

(花巻泊) 第四時前花巻旅宿へ着、同所入口に同家来町役人老人出迎ふ、入口の模様
模様

丹羽領分城下町の如く同心長屋とも云うべき□程建連ね、直に町屋に続く同町を出離れ坂あり、
三五軒間程隔てまた町屋軒を並ぶ町並、繁栄ならざる如くなれども旅宿抔にて成家は当に見
受けり、

且町数□程長し本町に到りて火の廻り役兩人と人馬差配役老人、各所に出現へり町同役

尋問す、前書(☺) 領分内始終附添へる由を目付役並□半七、医師水野立斎、徒目付中村小十郎
尋問す、天□□□□午飯を弁当に取計ら得ども宿方各分の手数を省き趣、領主家来より□□に付
其通り

命にては如為清作来り報ず

乾海鼠のわぎり。(煮つけ) 一寸白昆布にうどに山葵醬油かけ一寸蛸乾鮑織するめを各品に煮つけ
し也、

途中所々に新たに雪を雪掻除の場所あり、此度通行による事に見□、積雪堅く凍りて取除がたく

(○)内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。